

ザヒールツ・デイーン・ムハンマド・バーブル著／間野英二訳注

『バーブル・ナーマ』

——ムガル帝国創設者の回想録—— 1〜3

(東洋文庫 853・855・857)

	平凡社	B6変
1	二〇一四・九刊	三七〇頁 三〇〇〇円
2	二〇一四・一一刊	三九二頁 三二〇〇円
3	二〇一五・一刊	四三六頁 三二〇〇円

アジア諸地域における代表的な古典の翻訳に定評のある平凡社、東洋文庫シリーズから新たに『バーブル・ナーマ』が出版された。

本作品はティムール朝王族の出身でムガル朝の創始者となったバーブル(二四八三―一五三〇)の自叙伝である。その簡潔で的確な文体や率直な心情表現により、テュルク語散文の傑作とされるだけではなく、ティムール朝崩壊期に活躍した一君主の自叙伝として、中央アジア・インド史における第一級の史料と評価されている。

本書は間野英二氏による『バーブル・ナーマの研究』(松花堂、全四巻)のうち第三巻、『バーブル・ナーマの研究Ⅲ 訳注』(二九九八、以下『訳注』)の改訂新版であり、『訳注』の第一部フェルガーナ、第二部カーブル、第三部ヒンドウスターンをそれぞれ分冊した、全三巻から成る。その特長を簡潔に述べれば、間野氏の長年の研究に裏打ちされた優れた校訂に基づく、正確な翻訳ということになる。この点は『バーブル・ナーマの研究』各巻に対す

る多くの新刊紹介、書評で高く評価され、改めて贅言を要さない。『訳注』は既に絶版となっており、本書の出版により、この優れた翻訳本が再び書店で手に入るようになったことは非常に喜ばしい。さらに改訂にあたっては、誤植の訂正や表記規則の変更に限らず、百点を超える内容上の修正、変更がなされている。

専門家にとつて、本書でまず注目すべき点は『バーブル・ナーマの研究Ⅰ 校訂本 第二版』(二〇〇六)の補訂を受けて細部が改訂されている点である。この補訂では、第一版でも使用された四点の写本に加え、新たに三点のチャガタイ・テュルク語写本が用いられた。一例を挙げるならば、『訳注』に登場する都市ウトラルが、本書では別都市であるタラールとされている(第一巻二七頁、二七九―二八〇頁 注一〇)。これら補訂で用いた写本七点の概要は、間野氏がまだ未見である写本三点とともに、解題に述べられている。そのほか従来の校訂に従う部分も、訳文について若干の修正が為された。さらに注と解題において、『訳注』出版以後に発表された最新の研究二〇点余が追加された。

一般読者にとつては、分冊されてサイズが全書判となったことで、携行に便利となった。注は一般読者を念頭において全面的に改訂された。まず読みやすさの向上を図るために、注の一部が括弧付きで本文中に組み入れられた。その他の注も、校訂に用いた諸写本間に見られる異同等、専門的な部分が削られた。加えて「イスカンダルの壁」(第三巻一七五頁、三三五頁 注二一)など一般読者になじみの薄い用語の説明が追加された。本書の解題は、『訳注』の解題を簡略化させ、間野氏が一般読者向けに書かれた著作

『パーブルームガル帝国の創設者』（山川出版社、二〇一三）の記述を踏まえつつ変更されている。以上の点で、本書は専門家のみならず、広く一般読者にも奨めたい訳書である。
(徳永佳晃)